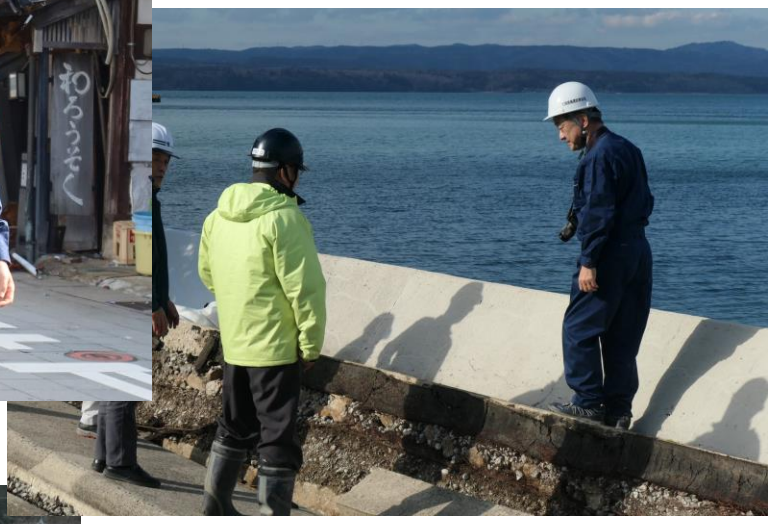
能登半島地震被災地調査

富山県氷見市、石川県七尾市及び穴水町



令和6年1月31日

参議院議員　足立敏之

能登半島地震が発生してほぼ１ヶ月になる1月31日(水)、今回の地震で被災した富山県氷見市、石川県七尾市、穴水町に伺い被災状況を調査しました。
本報告は、その概要をとりまとめたものです。

氷見市

氷見市では、まず、氷見建設会館で氷見市の林市長、ご地元の光澤県議、富山県氷見土木事務所の高嶋所長、発生直後から応急復旧にあたっていただいてる氷見建設業協会の森越会長、干場支部長他会員の皆さん等から被災状況の説明を受けました。
なお、氷見市では当初多数の断水家屋が出ていたが、1月21日までに解消していました。また、避難者も23日までにみなし仮設として市営住宅を活用することなどで解消していました。
その後、二級河川の上庄川、阿尾川の被災現場に伺いました。移動中の道路には多数の亀裂や段差が発生しており、遠回りを余儀なくされました。
上庄川では堤防が側方流動により沈下したり、川側にはらみ出しなどしていました。また阿尾川では、根固め部のコンクリート矢板が、川側に倒れ込んでいる状況を確認しました。いずれの河川についても出水期に間に合わせるため、早期に原形復旧を行うことが必要と感じました。

続いて、道の駅氷見「ひみ番屋街」の近くの北大町地区に伺いました。全国ニュースでも報道された商店街の家屋倒壊箇所に伺いましたが、地盤の液状化が原因で多くの商店や家屋が倒壊しており、もともとのたたずまいを残してどのように再建するのかが大きな課題と考えられます。
その後、北部の姿地区に伺いましたが、こちらは大きな揺れにより多数の一軒家の家屋が倒壊しており、被害の大きさに驚きました。

七尾市

続いて、氷見市の北隣の石川県七尾市に移動し、七尾鹿島建設業協同組合で石川県建設業協会七尾支部の田村支部長や戸田さん、川田さんなどから、応急復旧の状況について説明をいただきました。能登半島を南北に結ぶ国道249号については、各社分担して対応していただき、通行が確保されていることがよくわかりました。なお、水道については復旧しておらず、一軒残っている銭湯が大混雑しているとのことでした。
その後、七尾市街地の家屋倒壊状況を見させていただき、続いて能登島との間に架かる全長1050mの能登島大橋に伺い、段差解消の措置を行い、何とか通行を確保している状況を見せていただきました。

次に、和倉温泉に伺い、海岸護岸が被災している状況を確認しました。なお、有名な温泉旅館の建物については、地震動や液状化により大きな被害を受けており、復旧には相当程度時間がかかるように見えました。

その後、自動車専用道路の「のと里山海道」を通って穴水方面に向かいましたが、盛土箇所が随所で大きく崩落するなど深刻な被害を受けており、地元建設業の皆さんが分担し大胆な切り替えを行ったり、新たに迂回路を整備することで一方通行ではありましたが、通行を確保していました。
なお、「のと里山海道」については、能登半島の背骨とも言える重要な道路であり、今後、能越自動車道のような高規格道路並みに構造的に強化することが必要であると感じました。

穴水町

次に、七尾市の北隣の穴水町に移動し、穴水建設業協会で石川県鳳輪建設業協会の高木会長、穴水建設業協会の摩郷会長、塩谷伸栄建設社長と合流し、応急復旧の状況について説明をいただきながら、穴水町の中心街の内浦街道沿いの被災状況を見させていただきました。

七尾市より震源に近いこともあって、建物倒壊の深刻さを感じました。水道が復旧しておらず、穴水駅前ではボランティアによる入浴支援が行われていました。道路などのインフラも復旧作業に手がついていない状況で、七尾市と比較して大きく遅れているように感じました。
なお、土砂災害で16名がお亡くなりになった由比ヶ丘地区にも伺いましたが、悲惨さに声も出ない状況でした。

令和6年能登半島地震　道路の復旧状況

2/8　7時00分時点

出典：国土交通省資料「令和6年能登半島地震　能登半島　道路の緊急復旧の状況（R6.2.8）」を基に足立敏之事務所にて作成